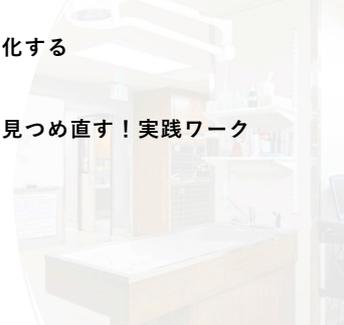


「第1回 数字で可視化する
愛玩動物看護師の
『貢献』と『価値』を見つめ直す！実践ワーク
ショップ」

2025年12月14日(日)



1

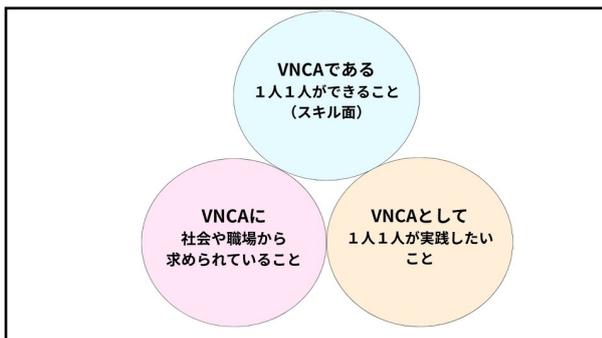
-ワークショップ開催の経緯-

国家資格となった今、「できることが増えた」という喜びとともに、「資格をどう活かせばいいのか」という悩みの声も聞かれます。

だからこそ、日々の仕事の中にある「見えにくい価値」を改めて見つめ直すことが大切です。

このたび、アイルランドで行われた事例を参考に「こんなワークショップが日本にもあったらいいのに…」という想いから、「それなら自分たちで開こう！」と決意し、日本でも同様のワークショップを企画いたしました。

2



3

-ワークショップで目指すこと-

■ワークショップ全体のテーマ
「日々の自分たちの仕事が、どれだけの売上や価値を生み出しているか」を具体的に考える研修

■目的

- ①自分たちの仕事の「見える化」
- ②院内での「VNCAの役割の再発見」
- ③仕事や経験の「意味を再確認」

■ゴール
自身の知識や技術が「貴重な価値」であることを実感できること

4

ワークショップの進め方について



5

「もし自分が、愛玩動物看護師として
動物病院のサービスの中で
売り上げを生み出すとしたら、
1年間でいくらになるとおもいますか？」



6

-ワークショップの進め方-STEP①

皆さんのグループが担当する「プロジェクト開発テーマ」を発表します。
配布資料を参考に、チーム名、役割分担を決定してください。

- シニア：シニアウェルネスプロジェクト
- デンタル：デンタルケアプロジェクト
- 肥満：ウェイトマネジメントプロジェクト

7

-ワークショップの進め方-STEP②

次に、それぞれの開発プロジェクトに基づき
愛玩動物看護師として提供できるサービス・商品
各班で話し合いながら、可能な限り書き出してください。

※「これはやっても良いの?」「愛玩動物看護師の役割に入る?」など
不安がある場合は、グループ内で相談しながら考えてOKです。

8

- シニア：シニアウェルネスプロジェクト
犬猫の「シニア」に対して、VNとしてどのようなケアやサポートができるか?
- デンタル：デンタルケアサポートプロジェクト
犬猫の「歯科」に対して、VNとしてどのようなケアやサポートができるか?
- 肥満ケア：ウェイトマネジメントプロジェクト
犬猫の「肥満」に対して、VNとしてどのようなケアやサポートができるか?

9

-ワークショップの進め方-STEP③

病院で実際に提供することを想定して、
それぞれのサービスに「価格」をつけてください。

サービス・商品の例	単価の例
血圧測定	800円
生活環境アドバイス	1000円
体重・BCSチェック	500円
フード相談	500円
療法食やグッズの販売	3000円 (売値)

10

●商品
サービス名

●単価

待合室	受付	診察室
処置室	検査室	その他

商品・サービス	単価	頻度	年額
【総額】			¥00000

11

-ワークショップの進め方-STEP④

更に各サービスや商品をどのくらいの頻度で
提供できるかを想定し、年間の売上額をシミュレーションする
例)

・血圧測定 (1,000円) × 月10件 × 12ヵ月 = 120,000円
・栄養相談 (1,500円) × 月10件 × 12ヵ月 = 180,000円

サービス (単価) × 提供件数(月ごと) × 提供件数(1年) = 年額

12

-ワークショップの進め方-STEP⑤

最後に表に記入し、サービス・商品ごとの年額を合算します

サービス	単価	頻度	年額
血圧測定	1,000	月10件	¥120000
生活環境アドバイス	-	-	¥-
体重・BCSチェック	-	-	¥-
フード提案	-	-	¥-
療法食販売	-	-	¥-
【総額】			¥〇〇〇〇〇

13

1番「総額」が高いチームが優勝！



14

質疑応答

15

動物病院におけるワークショップの活用例

16

-活用例-① 「愛玩動物看護師主導のケアプログラム」を実施

ワークショップの3テーマのいずれかをそのまま自院版にする。

例：自院版「シニア猫ケアサポートプラン」

- ・定期血圧測定（月1～2回）
- ・食事・生活環境のオンライン相談
- ・排泄管理・投薬サポート
- ・必要に応じてフードやサプリ提案

ワークショップで行った「洗い出し→頻度→売上シミュレーション」の手法を使い、実際に院としてサービス化する骨組みを作る

17

-活用例-② 1つ得意分野を選び「ミニプロジェクト」として開始する

ワークショップのテーマに沿って、「シニア」「デンタル」「肥満ケア」のいずれかを自院で小さく試す。

例：肥満ケアのミニプロジェクト

- ・体重管理シートをオリジナルで作る
 - ・推奨フードを提示してみる
 - ・体重の変化を追いながらサポート
 - ・まずは毎月1頭だけ継続フォロー
- まずは1頭の成功体験と、事例をつくることを目指す

18

-活用例-③ 自分の担当領域の「価値」を洗い出す

「自分が提供できること」「頻度」「売上」を可視化する。

例：シニア猫のケア担当 の場合

- ・ 血圧測定：週3件 → 月12件
- ・ 耳掃除・爪切り：週5件 → 月20件
- ・ 食事相談：週3件 → 月12件

→ 実際の価格を当てはめて年間換算すると「こんなに病院に貢献してる！」と実感できる

期待効果：

自分の役割に自信がつく、「自分ができる価値」を院長・後輩に言語化できる